

---

# ありがとう

桜音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ありがとう

### 【Zマーク】

Z9997V

### 【作者名】

桜音

### 【あらすじ】

あんなに嫌いで、憎んでいた人間を、愛せる事。  
自分に向けられる愛情に気付ける事。

「…先生が俺を愛してくれたから…俺はあいつ等を愛せる。だから、  
ありがとう」

(前書き)

あんなに嫌いで、憎んでいた人間を、愛せる事。  
自分に向けられる愛情に気付ける事。

「…先生が俺を愛してくれたから…俺はあいつ等を愛せる。だから、  
ありがとう」

「先生、久し振り」

久しく来ていなかつた先生の墓に、花と酒を持って俺は訪れた。  
雑草が無いから、ヅラカチビ辺りが来てたんだろうな。

「なんだ。あいつ等来てたんだな」

てつきり来てないと思つてた。

墓石の前に腰を下ろして、持つてきた猪口に酒を注ぐ。  
一つのつが、一つを先生の墓の前に置く。

「相変わらず此処は涼しいなあ……。先生、ちょっと俺の話聞いてくれ  
んね？」

返事は返つてこない。

…当たり前か。

俺は酒を一口飲んで、墓石に話じ掛ける。

「俺、万事屋つてのやつてんだ。犬や猫探しから子守り、何でもや  
るつつー、何でも屋

大概の奴に馬鹿にされるけどな。

「んで、家族が出来たんだ。：：血の繋がりなんか無エけど、家族なんだ」

新ハは、いつもは駄目な眼鏡だけど、いざつて時は頼りになるんだ。神楽は、大食いで乱暴な奴だけど、優しくて誰より強いんだ。

「…知つてるか？高杉と桂がテロやめたんだぜ？吃驚だよな」

くくつと喉の奥で笑う。

パシャンと先生の前に置いた猪口が倒れ酒が零れた。

「……萩に帰るんだ」

強い風が吹いた。

髪に絡まつた枯葉を取つて眺める。

「…新ハと神楽も付いてくるんだ。家族だから離れねエつて」

どんだけ仲良しなんだろうな、俺達。

「すげえ、嬉しかったよ」

バシャッと墓石に酒を掛けてみた。

甘口の酒だから、先生も好きだろ。

酒は地面に吸い込まれるようにして消え、墓石も元の色を取り戻す。

「…今日、江戸を発つんだ。もつ行かねエとジラに怒られちまつ」

相変わらずなんだぜ。

空になつた酒瓶を持ち上げて、立ち上がり土を払う。  
少し別れがたいが、いつまでも此処にはいられない。  
苦笑を堪えて溜め息を吐く。

「…先生、ありがとな」

新八と神楽を家族と思える事。

ヅラや高杉を大切に思える事。

幕府に仕える真選組を助けられる事。

あんなに嫌いで、憎んでいた人間を、愛せる事。

自分に向けられる愛情に気付ける事。

「…先生が俺を愛してくれたから…俺はあいつ等を愛せる。だから、  
ありがと」

じゃーな。

少し照れ臭いから振り返らない。  
手を少しだけ振る。

「つたく…いい天氣だなコノヤロー」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9997v/>

---

ありがとう

2011年10月9日14時33分発行